

< 秀吉と家康が戦い、歴史が動いた。ここ長久手で。 >

～ 古戦場をめぐり、体感する。訪れてみたくなるフィールドミュージアム ～

長久手市古戦場公園再整備基本設計

(概要版)







ガイダンス施設 東面イメージ





ガイダンス施設 西面イメージ





展示平面プロット図 <地下1階>

II [小牧・長久手の戦い]の全容を紐解く

プロジェクションマッピングや映像コンテンツ、グラフィックにより戦国時代の雰囲気ある空間とする。

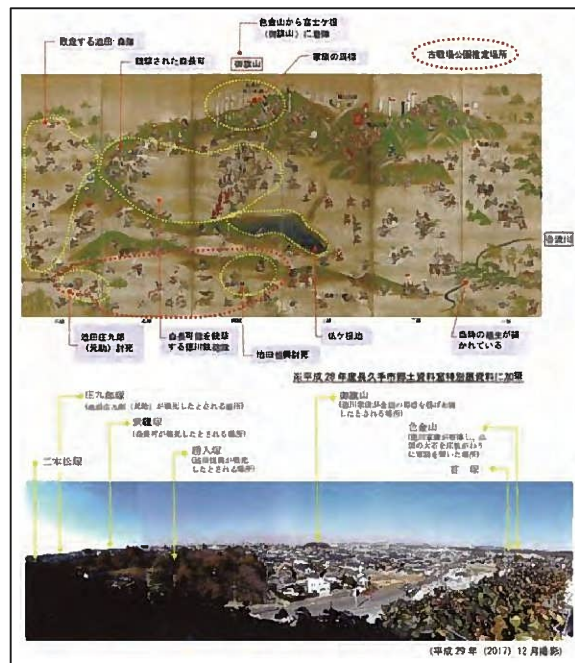
■マッピング映像

既存地形模型をリニューアル。小牧・長久手の戦いの動きを伝える。



■小牧・長久手合戦図屏風と現在風景の比較

小牧・長久手合戦図屏風と現在の写真(製作時に最新の状況を撮影)を並べ、合戦の場所がどこであったか等を知り、身近なものとして再認識させる。また、街歩きへの一助とする。

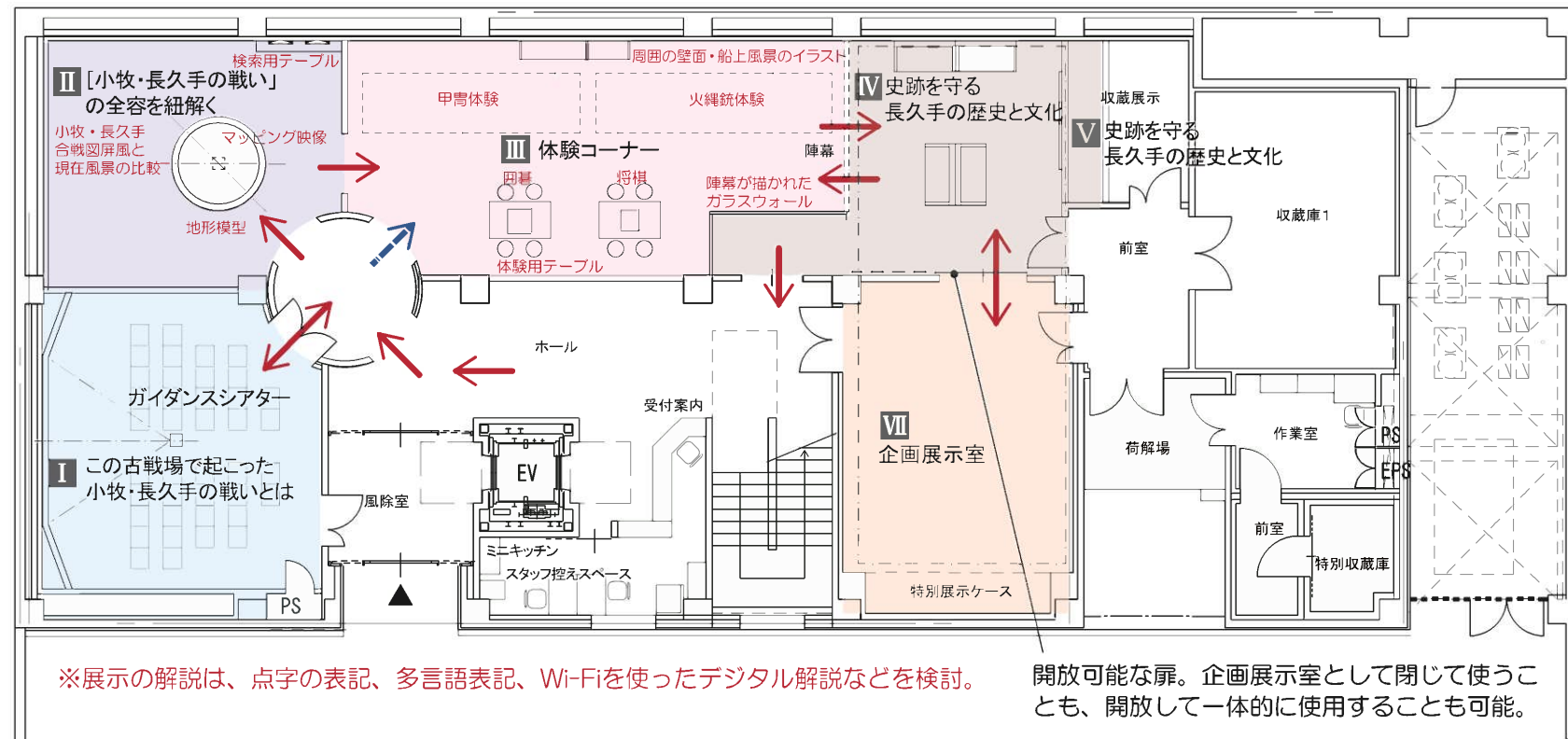
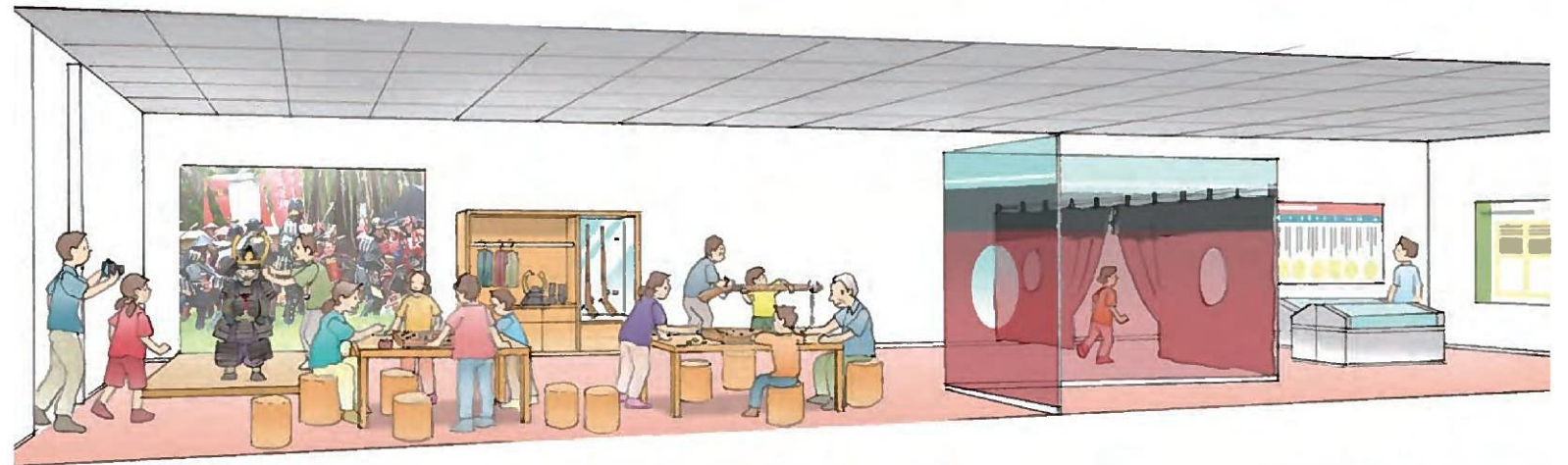


参考例：平成28年度長久手市郷土資料室特別展資料

III 体験コーナー

親子や仲間でする体験スペースを広くとり、固くなり過ぎない分かりやすいコーナーとする。リピーターに配慮し、入口から直接入れる動線を用意。

甲冑体験、火縄銃体験、合戦ゲーム等



※展示の解説は、点字の表記、多言語表記、Wi-Fiを使ったデジタル解説などを検討。

開放可能な扉。企画展示室として閉じて使うことも、開放して一体的に使用することも可能。

IV 資料展示

収蔵庫側を「収蔵展示」とし、保存環境を担保しつつ資料を展示する。

V 収蔵展示

収蔵庫と一体になった展示。資料保護をしながら、貴重な展示資料を公開する。



イメージイラスト



長久手市古戦場公園再整備基本設計業務

I 導入・ガイダンスシアター

迫力のある映像とするため、壁面を有効かつ多様に使える映像シアターとする。

■本編

「(仮)秀吉と家康が戦い歴史が動いた、ここ長久手で」「本能寺の変」から「江戸開府」までを解説。日本史における小牧・長久手の戦いの重要性を伝える。ドローンやCG、実写映像等で迫力ある映像とする。男性(武将)ばかりではなく、女性にも焦点をあてた内容とする。

■インタラクティブコンテンツ

見るだけではない、参加性のあるコンテンツとする。

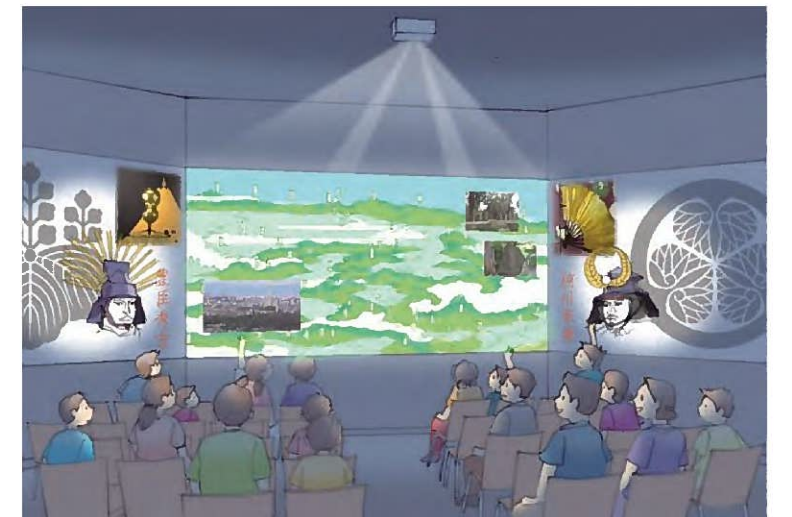
「(仮)デジタル武将トーク」

来館者に、興味をもってもらうくみのひとつとして、来館者が武将に質問したり、武将とのトークが楽しめるコンテンツ。

「(仮)デジタル長久手の戦い体験」

来館者の顔をスキャンした画像を、イケメン武将と一緒に騎馬隊や鉄砲隊として映像ストーリーに登場させるという臨場感あふれるコンテンツを導入。

イメージイラスト





展示平面プロット図 <1階 ガイダンスホール>



施設活動（案）

展示・活用事業	調査・研究 収集・保存 展示・活用 教育・普及
案内・解説事業	展示解説 史跡公園、フィールドミュージアムへの誘導
学習・育成事業	学校団体学習支援 解説ガイド等育成(生涯学習支援) 地域団体活動支援
交流・イベント事業	各種イベント企画・実施
施設維持管理事業	管理、貸出、物販
市民参画・市民協働	イベント、ワークショップなど

### VI 古戦場の史跡をめぐる

エントランスに接した明るい開放感のある空間で、古戦場公園、周辺文化財、街歩き情報を提供する。

※古戦場公園からフィールドミュージアムへ誘導。

#### ■長久手床地図

大きく引きでた長久手市の地図に長久手合戦史跡・城跡をメインに文化財をプロット。

#### ■QRコードなどで

床の長久手市の地図にQRコードなどを入れ、史跡の情報を得て街歩きへ誘引するしくみを取り入れる。



#### 運営の検討課題

- 運営・組織体制 … 直営、指定管理、市民への一部委託
  - 施設運営形態 … ○ 開館時間、休館日、
    - 入場料  
(参考：是川縄文館250円、石見銀山世界遺産センター 300円)
    - リピーター確保のためのしくみ(展示更新、年間パスなど)
  - 施設利用・貸出
  - 資料収集および収集環境
- など



基本方針

これまでに検討されてきた、「古戦場公園再整備基本構想（平成27年（2015）3月策定）」や「古戦場公園再整備基本計画（平成29年（2017）3月策定）」、「史跡長久手古戦場保存活用計画（平成30年（2018）3月策定）」の基本方針を踏襲し、<秀吉と家康が戦い、歴史が動いた。ここ長久手。>をテーマとし、史跡長久手古戦場区域や古戦場公園区域などを含んだエリアの再整備を行う。

① 古戦場景観の整備

- 既存木の伐採や剪定等の整理を行い、通景の確保と合戦当時の散開林を再生し、周辺市街地を目立たせない配慮により、歴史に思い馳せる景観を作っていく。

② 史跡環境の保全

- 史跡の本質的価値を構成している地形、樹林、今日まで大切に保存されてきた勝入塚や庄九郎塚などの石碑を保全・修復していく。

③ 魅力ある、利用しやすい施設整備

- 既存土地利用の見直しを行い、多様なイベントに対応できる広場の整備を行うとともに、主要動線はバリアフリーを念頭にとした園路整備を行う。
- 利用者の目線に立ったサインの整備を行う。

土地利用図

